

烏江亭に題す（杜牧）

勝敗兵家事不期 包羞忍恥是男兒
江東子弟多才俊 卷土重來未可知

解説 烏江亭訪れたときに項羽最期をしのび、その死を惜しんだ詩。

勝敗は 兵家も 事 期せず

羞を 包み 恥を 忍ぶは 是れ 男兒

江東の 子弟 才俊 多し

卷土 重來 未だ 知るべからず

語釈 ※兵家Ⅱ軍人。戰略家。※事不期Ⅱどうなっていくか予測されない。※包羞忍恥Ⅱ恥辱にたえること。*江東Ⅱ長江が西から北へ流れ、また東に流れる。その東岸、南岸の地方、江左ともいう。※才俊Ⅱすぐれた人物。※卷土重來Ⅱ地面を巻きあげるような勢いで再び来ること。二度負けた者が再び勢力を盛り返して攻めてくることのたとえ。※未可却Ⅱどうなっていたか、その結果はわからない。

通釈 いくさの勝負は戰略家でさえも、どうなっていくのか予測されないのである。恥辱にたえて、再起を計ってこそ真の男子といえる。項羽の本拠地の江東の若者たちにはすぐれた人物が多いことだから、江東の地に力をたくわえて、地面を巻きあげるような勢いで再び攻めて来たとしたら、その結果はどうなっていたかわからないのに。